【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。

［成果情報名］エンバク中生品種「とちゆたか」の品種特性
［要　　約］「とちゆたか」は、初期生育に優れ、乾物収量が多く、乾物率が高い品種である。
［部　　署］山形県農業総合研究センター畜産研究所・草地環境部
［連　絡　先］TEL 0233-23-8817
［成 果 区 分］普
［キーワード］春まきエンバク、乾物収量、初期生育、乾物率

［背景・ねらい］

エンバクは他のムギ類に比べ越冬性が低いが、環境適応性に優れ、ムギ類の中では耐湿性が高い草種である。また、播種から約２ヵ月で収穫できることから、二毛作の前作作物としての利用も期待できる。エンバクの本県における適応性を調査・検討し有望品種を選定する。

［成果の内容・特徴］

エンバク中生品種「とちゆたか」の生育特性は次のとおりである。

1　４月下旬から５月上旬に播種すると６月中下旬には刈取適期の出穂期に達する（表１）。

2　標準品種「ニューオールマイティ」に比べ、初期生育に優れ、乾物収量が 12%多く、乾物率が高い（表１、表２）。

［成果の活用面・留意点］

1　本情報は、農業総合研究センター畜産研究所(新庄市)において、山形県飼料作物栽培指針に準じ以下の概要で栽培した。

2　試験における栽培概要

播種日･方法･量 ： 令和５年４月 24 日　条播（条間 30 ㎝）9kg/10a
令和６年４月 18 日　条播（条間 30 ㎝）8kg/10a
令和７年５月９日　 散播　8kg/10a

施肥量：粒状苦土石灰 200 kg/10a、リン酸質資材 100kg/10a
基肥 N-P_2O_5-K_2O を各 0.6 kg/a

調査日：１年目令和５年６月 26 日
２年目令和６年６月 17 日
３年目令和７年６月 20 日

3　留意事項

メーカーカタログには緑肥として記載されているが、メーカーでは飼料用としても販売している。

［具体的なデータ］

表１　生育

品種名		播種日	発芽良否	初期生育	出穂始	出穂程度	倒伏程度	病害程度 冠さび病
		月日	1～9良	1～9良	月日	1～9多	1～9甚	1～9甚
とちゆたか	5年	4月24日	6.3	7.3	6月13日	9.0	1.0	1.0
	6年	4月18日	7.7	7.7	6月10日	9.0	1.0	1.0
	7年	5月9日	7.5	6.8	6月20日	9.0	1.0	1.0
	3か年平均	4月27日	7.2	7.3	6月14日	9.0	1.0	1.0
ニューオールマイティ	5年	4月24日	6.0	6.7	6月14日	9.0	1.0	1.0
(標準)	6年	4月18日	7.7	7.3	6月10日	9.0	1.0	1.0
	7年	5月9日	7.5	6.8	6月20日	9.0	1.0	1.0
	3か年平均	4月27日	7.1	6.9	6月14日	9.0	1.0	1.0

表２　草丈および乾物率および収量

品種名		草丈(cm)	生草収量 (kg/10a)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/10a)
とちゆたか	5年	109	2,644	17.4	460
	6年	91	1,751	19.0	332
	7年	88	2,414	15.0	363
	3か年平均	96	2,270	17.1	385
ニューオールマイティー	5年	113	2,106	15.2	332
(標準)	6年	92	1,844	18.5	342
	7年	89	2,462	14.5	357
	3か年平均	98	2,137	16.1	344

［その他］

研究課題名：飼料作物優良品種選定調査
予算区分：県単
研究期間：令和７年度（令和 5～7 年度）
研究担当者：阿部巖、菊地拓朗、伊藤修平
発表論文等：なし